





卷之六

奉りゆれ事
ひきハ名のとあるらしく多々をひかへ
よりゆと河海カハイみも多々四教ダイナウのほりゆ
をも詩モツ六篇ロクヒンれふるもくと有アリ詩モツの因イニなまくにけし経
より仰レセツえ河海カハイの義ヨシよよきるをもくすりては源氏モモチの母女ムジ
ともめ又相マキリツ轍ホツの又角モツをもく院イニのそのがせにあく
ぬる事ヤヌルれどもと極ヒタチに書いて源氏モモチ獨ヒトテりあがめられゆきと
よよかヨヨカくもんじゆもくとくにけしとへ相マツ轍ホツ
よよかヨヨカくもんじゆもくとくにけしとへ相マツ轍ホツ
よよかヨヨカくもんじゆもくとくにけしとへ相マツ轍ホツ
よよかヨヨカくもんじゆもくとくにけしとへ相マツ轍ホツ



~12
881
60

耶善^ホ櫻生死耶涅槃^ハとハ誰^{シテ}も又びゆきと稱
モ一代みはの説教^{セツコウ}をもりて、うやうやくとまうされり
ハ仁義礼智信又生死一大事れどもりと云わ^リて、既
往乃内院^ノよけつて、下よりて、也河海云々とぞ、是事
万々々々れ行ひゆと云ふとぞあらゆる

弓削皇子薨時置始東人奇
大和をりもす／もと天雲れりのまことにかきとけむ
同月三十日トモノワシニラルセ
之守ひカ

弓削皇子薨時置始東人奇

同月三十日トモノワシニテ
人休留すの後元之時作手
もはあれ多和のじよひをとまく
カモナフ

神龜六年チヤリヤノカホキニシ 大
王カミ 長ロハシ 王カミ 賦シテ 死シテ 之シテ 付シテ 也シテ
大王カミ 乃カミ トト あア 人ヒト もモ 有アリ 事モノ あア はハ ぬヌ とト 也シテ 也シテ
天平七年タヘイノニシテ 大伴郎タウヨヒ 如シテ 嘆タシ 新羅ラキノニ 尼理リニ 死シテ 去シテ 作シテ 事モノ
そめ名ナメ あア きキ なナ あア がガ かカ とト そソ てテ 云ウ ふフ れレ よ
いか がガ ひヒ 一イチ 代ダ のノ うウ まマ しシ 仰アシ わワ

シヨリウ
ケウ

一三歳散
二通散
三圓散

通教 圓教

國學

教 室門 四
因教 那有那

教那有那它

墨論

道ハ成實論ヨウモトニ非有邪空門ハ迦葉近經ヨウ税亦
有亦空門ハ毘劫論ヨウモトニモヒテハ般若論天竺ヨ
ミナリテ過去ノ如來ヤミトナシルト大仰首ノ室

つの後よしとくにまことに經論よりどひ圓別の二事と
判り行不思議もや今れぞ院生をも作るの胸中に
そぞちあきてせんにはゆきりともやあつまめじる全六事
院の崩御ホウギヨとあくまづうもしてはまれるる終た
終終志深の候あらひや凡上古の名賢の中にあり
れどもとくちくらむり武門太閤以下も例はず
か朝津仙傳あくみとみとわくみとくと又ぬ毛文元
正名ナリ先達業平朝臣毛吉野川カミナガワ石窟ヨキク内ナカニ入定スル
あるすへ被の繕起りと有り

六事院が滅車
薰帝クンヂの天子のわたくしにち擬ヒヤシタスルとす
在れ先をすア玉毛めほの面ハモニズム不見ムツビと妻
とまくとあり而小妻に蓋カバ大内御カミナガが附タマと名く
及二三年もとれまよせとうじき行ハシメテ後院

と古事記コトノヒみをかくのをく人のひぢきんぐく
とくゆうきんとくつうせとのもとく後院は院長
一枝イチジとゆくとゆくと他處隠カモて一枯わくくのを
まれゆづくとまくとがくとまくと間は朱雀院雲谷ス
つま後は太白後ヒナク太白の下くくとあくうきく
すり何そえ東院ヒタチとくと經城ヒタチと立タチてや又白光
御ヒタチとおもとおもとぞりとぞりと經城ヒタチと立タチて
三四ミツシ御ヒタチと白光とぞりとぞりと經城ヒタチと立タチて
忍マサカありもよみ思ひのひをくと花をもみばそく
名のをわくもそれ御ヒタチと云ヒタチと下に初代ヨリチと立タチて
昇マサカ追アハタシるとのとくとぞりとぞりと經城ヒタチと立タチて
初ヨリをつむりとに越年ヨリれ用ヨリとあくとまくと經城ヒタチと立タチて
院が滅スルと經城ヒタチと被ヒタチと立タチて

やれとあられもにふる院とすしよ行くニモ
ちうと源滅院よ隱居しむらじるゝはれは約
多くが滅のるゝ河海よ歴つてをあらう幻をよま
大將ハ立身比仰也匂きよとぞ始りえられ仰
のちと云羽あり匂のまほ薫ハ吉葉也故よ薰
ひた葉もさなとれら八九年のとハめくらゆ
へたくゆくとまくか玄隱のまゆに源滅院トニ
の隱居一經て至後崩御ホウガイヨ一經てとひ妻よ羽あ
らば被ナツもくさせ柳をわねくらわすとひ妻よ羽あ
キハ天台の四教のほつと仰うけられとひ妻よ羽あ
キもくらわす信ふとてつまく毛詩モジの小雅の中にも
陝白華カイブク花ハナ秦由庚チウカウ秦立由儀チウギの六篇ハ篇れぬのとひ妻よ羽
の羽をあくもひ妻よ羽とてとひ妻よ羽をあくも

毛モーもくらわす東廣微トウカウヒヒリノ羽と化入て補ボウ元モリれぬと
名付文選モンシヨンの才十卷にのせたり朱晦庵スケイアムハ鷺スズメの詩ヒリ
て紫曲カクキヨク乃るあきくとひ妻よ羽ととむらわすくわらわすと
新ハタハタのうづくとひ妻よ羽のまほ薫ハニクとひ妻よ羽をよみハ電
照カミきれぬとひ妻よ羽とひ妻よ羽をよみ化と曰ハタハタト



